

ループリック評価点数による審査方法について

社会実装教育フォーラム専門部会

社会実装教育フォーラムにおける発表は、技術的成果のみならず、構想力、取り組みの過程、社会との関係性、将来の発展可能性など、多面的な価値を含んでいます。そのため、点数のみで評価を行う場合、こうした重要な側面を十分に反映できず、「優れた発表」や「将来性の高い取り組み」を見過ごす可能性があるというご指摘は妥当だと考えます。

一方で、発表件数が多い本フォーラムにおいて、審査の公平性・透明性・効率性を確保するためには、一定の定量的基準を設けることが不可欠です。また、評価基準を明確化することは、参加学生にとっても発表準備の指針となり、学習効果を高める役割を果たします。

これらの要請を両立させるため、複数名による評価と統計的手法を用いた平均化処理を導入しています。複数人評価により個々の審査員の主観や評価傾向による偏りを抑制し、統計的処理により甘辛差や偶発的な揺らぎを補正することで、より公平で説明可能性の高い評価を実現することを目的として、社会実装教育の理念を損なうことなく運営上の合理性も確保する、「点数による審査方法」といたします。

具体的な審査方法・評価シート等については、別紙の「令和7年度社会実装教育フォーラムの基本方針と評価・審査対象」及び「令和7年度社会実装教育フォーラム審査要領」をご参照ください。

点数の扱い(統計処理版)

1. 各チームの総合点を算出。
2. 審査員ごとに 総合点の平均： μ 、および総合点の標準偏差： σ を算出し、各チームに対する点数 x を $z = (x - \mu)/\sigma$ に標準化（審査員ごとの甘辛補正）。
3. チームごとに z の平均を取り、これを基準スコアとする。
4. チームごとの z の標準偏差を、標準偏差が大きいチーム（ $SD \geq 1.2$ ）は「評価ばらつきあり」として抽出。
5. 最後に z を 1～5 のスケールに戻して順位づける。

◇ルーブリック

ファーストステージ・ファイナルステージ共通 評価項目・評価点・評価要素・評価基準

評価項目	評価点	評価要素	評価基準
① 構想 (コンセプト)	5	独創性・説得力	社会課題の抽出プロセスが的確かつ独創的で、 構想・コンセプトが明確に整理され説得力がある
	4	社会的意義	社会課題が明確で、課題抽出のプロセスや構想・コンセプトが適切 に示されている
	3	明確な構想	課題や構想は示されているが、課題抽出のプロセスや社会的意義 の説明が不十分
	2	曖昧な構想	課題や構想が漠然としており、社会とのつながりが弱い
	1	構想が不明	課題やコンセプトが不明確、または独りよがりになっている
② 要素技術	5	工夫・革新性	高度な工夫や革新性があり、実装が優れ、要素技術として際立っ ている
	4	具体的技術	技術選定が適切で、独自性や工夫があり、実装も現実的に示され ている
	3	基本技術	技術は妥当だが、独自性や具体的な実装内容に不足がある
	2	構成のみ	基本的な構成に留まり、工夫や実装の具体性が乏しい
	1	構成が不適	技術選定が不適切、または実現性の検討が欠けている
③ 社会実験	5	成果の深化	社会からのフィードバックや学生の体験が豊かで、実践的成果が明 確に得られている
	4	有意義な フィードバック	実際に社会と連携し、有意義なフィードバックや体験が得られている
	3	有効な連携	連携はあるが、成果や体験が限定的で十分とは言えない
	2	形式的連携	形式的または部分的な社会実験・連携に留まっている
	1	未連携	社会実験や連携の試みが見られない
④ プレゼン	5	説得力・熱意	聞き手を強く惹きつける明快で説得力のある発表で、科学的説明 も正確である。
	4	聴衆への配慮	時間配分・説明・資料が適切で、技術の説明と聞き手への配慮の 両面で優れている
	3	情報提供	概ね理解できるが、技術の説明や聞き手への配慮に不足がある
	2	発表している	説明や資料が不十分で、理解しにくい部分が多い
	1	発表不成立	説明や資料が不明瞭で、発表として成立していない

社会実装教育フォーラムの基本方針と評価・審査対象

令和8年1月9日

社会実装教育フォーラム発展PT決定

1. 基本方針

1. 1 社会実装教育と社会実装教育フォーラムとは

社会実装教育とは、科学技術により社会を変革する力（科学技術イノベーション力）を涵養する教育である。そして、社会実装教育フォーラムは、社会課題を発掘しその解決に取組み、科学技術イノベーション活動全体を発表し競技形式で評価する社会実装の学びの場である。

社会実装教育フォーラムの効用は、学生にとっては、自らの活動とそこから得た学びに関して、専門家からの確かな評価を受けることで、単に成果を競う場のみではなく、専門能力と共に異分野の知見や技術を統合的に活用する力、つまり“統合知能力”（知識・技能、思考力・判断力・表現力および学びに向かう力、人間性を統合的に活用する力）を体験的に身につける場となっていること、また教員にとっては、学生と共にユーザ等と共創しながら現実課題を解決する社会実装教育研究の場になっていることにある。

社会実装教育フォーラムにおける社会実装教育のプロセスは図1に示すように、4つのプロセスを繰り返し、フィードバックと改善を継続していく流れとなっている。

（ステップ1）社会の課題を発掘する。

（ステップ2）解決するアイデア（サービスや必要機能を含む）を学生自らが考え出し、それを実現するシステム（ハードウェアやソフトウェアを含む）を制作する。

（ステップ3）それを社会と連携しつつ現場に持ち込みユーザの評価を聞きフィードバックを受けながら改良する活動を行う。

（ステップ4）その活動プロセスをコンテスト形式で発表して専門家から評価を受けることによる教育を実施する。

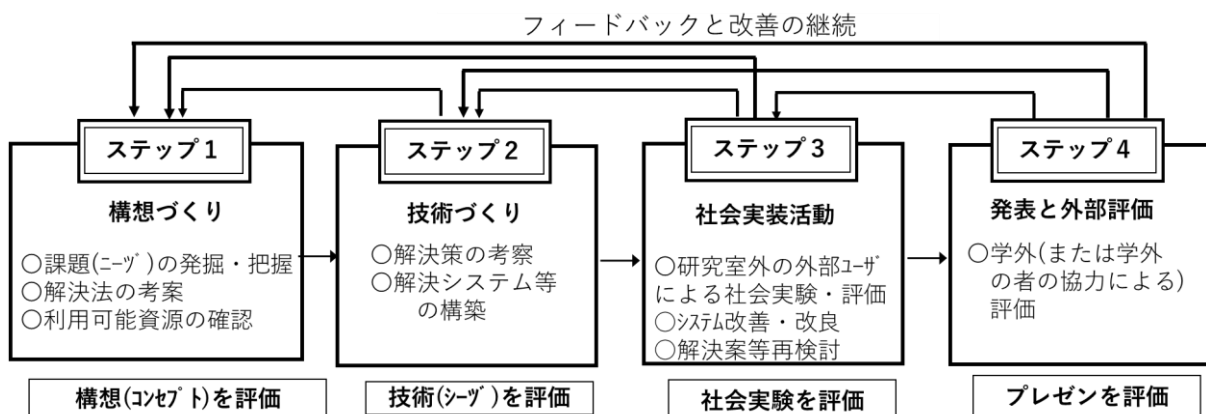


図1 社会実装教育のプロセスと社会実装フォーラムでの評価項目

1. 2 社会実装教育フォーラムにおける評価

社会実装教育フォーラムでは、成果物であるモノやシステムの完成度のみを競うのではなく、学生自らが社会と向き合い、課題を発掘し、その解決に向けた取組みプロセスからの学びを教育的観点から評価する（プロセス評価）。

1. 3 社会実装教育に含まれるプロセスと授与する賞との関係

社会実装フォーラムにおける社会実装教育の観点には、図2に示すように多面的な側面が含まれている。例えば、「学生自らが社会と向き合い、課題を発掘する」活動プロセスには、① グラウンドデザインづくりと ② 社会実装モデル構築（実際の事業ではビジネスモデルに相当する）のプロセスが関係している。また、「課題解決に社会と連携して取り組む」活動プロセスには、③ 技術開発、④ システム統合、⑤ 現場実験、⑥ ユーザの声聞き・改良、⑦ 啓蒙・教育、そして⑧ 社会ルール変更のプロセスが関係している。

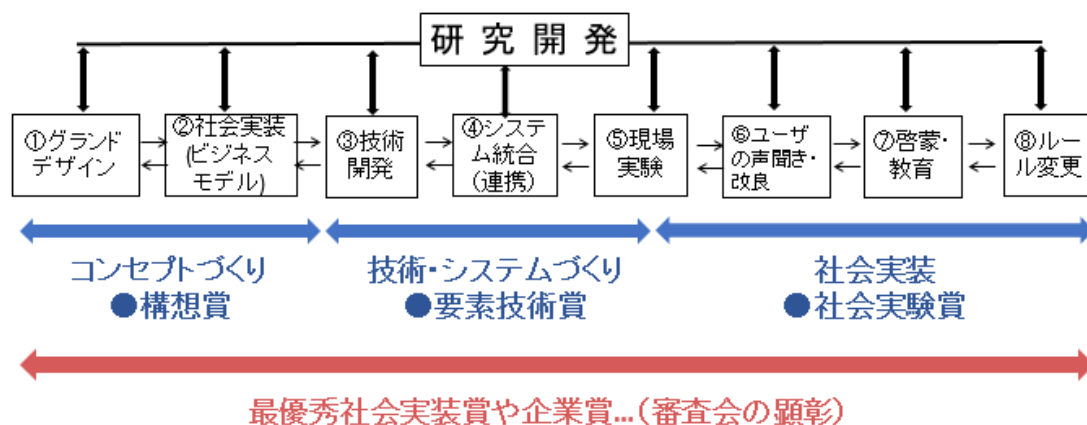


図2 科学技術イノベーションと社会実装フォーラムでの賞との関係

社会実装教育を通じた取り組みの最終評価は、以上で述べたプロセスを踏まえ、図2に付記した賞を選定する過程で行う。賞は、各々のプロセスに対応した賞（構想賞、要素技術賞、社会実験賞など）と、全体にかかわる賞（各社会実装賞）とに分類される。

2. 審査対象

社会実装教育フォーラムに参加する全チームを審査対象とする。

審査は、図3に示すような流れで、社会実装教育フォーラムの全参加チームを対象に、前述した各賞に相当するチームを、ファーストステージとファイナルステージの2段階で、それぞれ決定する。

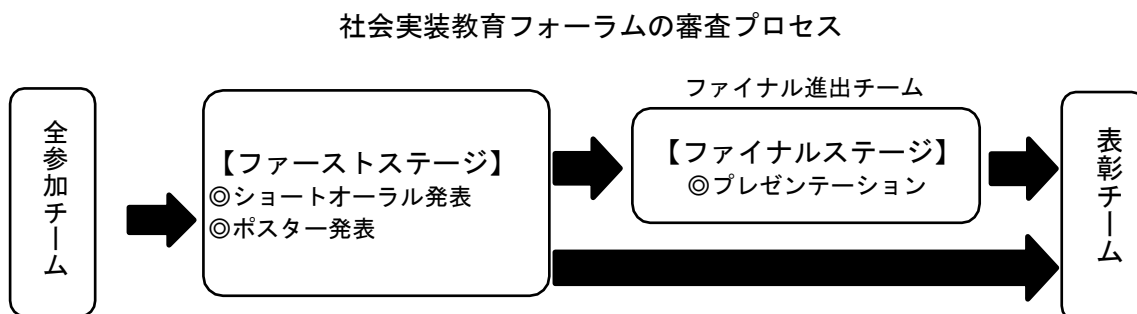


図3 社会実装教育フォーラムの審査プロセス

令和7年度 社会実装教育フォーラム審査要領

令和8年1月9日
社会実装教育フォーラム専門部会

1. 社会実装教育フォーラムの審査員と役割

本フォーラムの審査員は、「**表彰委員**」と「**有識者**」で構成される。社会実装教育フォーラムの基本方針（別紙）の1.2 および1.3 を踏まえ評価を行う。

1.1. 表彰委員

高専に所属しない外部の専門家から構成される。1日目および2日目の発表に参加するとともに、両日開催される審査会に出席する。

1.2. 有識者

高専教職員で構成され、ファーストステージ（1日目）のみの審査を行う。**審査会には出席しない。**

2. ファーストステージ（1日目）の審査

ファーストステージは2セッションから構成され、各セッションは前半のショートオーラル発表と、後半のポスター発表から成る。

2.1. ショートオーラル発表の聴講（全チーム）

ステージ上に設置されたスクリーン前の席で、各チーム70秒の発表を聴講する。オンライン参加のチームについては動画を上映する。

審査員（表彰委員・有識者）は後半のポスター発表で訪問したい（興味を持った）チームを選定し、事務局から「指定」されたチームを確認する。

2.2. ポスター発表の審査（指定チーム）

表彰委員と有識者は、まず事務局から指定されたチームを訪問して質疑を行い、評価シートに記入する。次にショートオーラルで興味をもったチームを訪問して質疑を行い、審査結果を評価シートに記入する。オンライン参加チームは会場に設置されたPCのビデオ通話で対応する。

2.3. 審査会

ファーストステージ（1日目）のポスターセッション終了後に、全審査員（表彰委員＋有識者）の評価シートの集計をもとに議論し、以下を決定する。

① 2日目のファイナルステージに進出する8チームの選出

- A) 評価点が上位の4チーム
- B) 議論の結果、表彰委員が「優れた取組み」とした4チーム

② 1日目の賞（表1参照）の選定

ファイナル進出チーム以外が対象。評価点及び各審査員の推薦数を目安に決定する。

3. ファイナルステージ（2日目）

- 表彰委員は全8チームのオーラル発表を聴講し、質疑を踏まえ評価シートに記入する。
- 各チームの発表時間は8分、質疑応答は4分
- 進出を決めた8チームが、順番にプレゼンテーションを行う。

3.1. 最終審査会

ファイナルステージ（2日目）の8チームの審査結果から各賞の受賞チームを決定する。（表2参照）

① 企業賞等の審査

表彰委員のうち該当の団体及び該当企業の審査員により決定する。（表3参照）

② 社会インフラ現場実装賞の審査と選定

建設現場実装プロジェクトの2名の審査員と国交省外郭団体の2名の選定員、国交省本省の1名の選定員で審査を行う。（以下、建設現場実装プロジェクト審査員という。）
（表3参照）

③ 特別賞の選定

賞を授与する団体の独自の選定基準で選定する。（表4参照）

当該選定を行う者は、以下表1、表2、表3の賞を決定する審査会及び最終審査会には出席しない。

表1：1日目（ファーストステージ）選定の賞の種類・選定数と選定要領

賞名称	選定数	選定要領、表彰
構想賞 要素技術賞 社会実験賞 プレゼンテーション賞	各賞3チーム以内	・「ファイナル発表出場8チーム以外」が対象。 ・ファーストステージ評価シートで「賞の推薦」を受けた数の合計を目安に選定する。 ・賞状を授与する。

表 2 : 2 日目（ファイナルステージ）選定の賞の種類・選定数と選定要領

賞名称	選定数	選定要領、表彰・副賞
最優秀社会実装賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・評価合計点数が最も高いチームを目安に選定する。 ・賞状と副賞を授与する。
優秀社会実装賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・評価合計点数が 2 番目に高いチームを目安に選定する。 ・賞状を授与する。
社会実装構想賞	0 ～ 3 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・最優秀社会実装賞及び優秀社会実装賞受賞チーム以外の構想が優れているチームを選定する。 ・賞状を授与する。
社会実装要素技術賞	0 ～ 3 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・最優秀社会実装賞及び優秀社会実装賞受賞チーム以外の要素技術が優れているチームを選定する。 ・賞状を授与する。
社会実装社会実験賞	0 ～ 3 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・最優秀社会実装賞及び優秀社会実装賞受賞チーム以外の社会実験が優れているチームを選定する。 ・賞状を授与する。
社会実装賞	3 ～ 6 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナル発表チームに対して賞状を授与する。 ただし、上記 5 つの賞を授与したチームは除く。

表 3 : 企業賞等の種類・選定数と選定要領

賞名称	選定数	選定要領、表彰・副賞
八王子市長賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰委員（八王子商工会議所）により選定される。 ・賞状を授与する。（他賞との重複受賞可）
三菱電機ロボット技術賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰委員（三菱電機（株））により選定される。 ・賞状と副賞を授与する。（他賞との重複受賞可）
安川電機賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰委員（（株）安川電機）により選定される。 ・賞状と副賞を授与する。（他賞との重複受賞可）
Sler 協会賞	1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰委員（Sler 協会）により選定される。 ・賞状と副賞を授与する。（他賞との重複受賞可）
社会インフラ現場実装賞	審査対象チームより 1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・建設関係のテーマに取り組んだチームを対象とする。 ・建設現場実装プロジェクト審査員により選定される。 ・賞状を授与する。（他賞との重複受賞可）

表 4：特別賞の種類・選定数と選定要領

賞名称	選定数	選定要領、表彰・副賞
特別賞 ○神奈川県 いのち・未来 戦略統括官賞 ○次世代センサ協議会 特別賞	審査対象チーム より 1 チーム	・全参加チームが対象。 ・賞状と副賞を授与する。（他賞との重複受賞可）

【特記事項】

1. 各審査会（1日目の審査会と2日目の最終審査会）の議長について

議長は社会実装教育フォーラム審査員長^{*1}とする。

ただし、審査員長不在の場合は、副審査員長を充てる。

^{*1} 審査員長 佐藤 知正氏（東京大学名誉教授）

2. 受賞の重複について

重複は問題なしを基本とするが、その程度が著しい場合は議論をして決定する。

分野についての配慮もしないことを基本とするが、その程度が著しい場合は議論し決定するものとする。

3. 副賞について

以下の賞に対して、副賞が授与される。

- ・最優秀社会実装賞
- ・三菱電機ロボット技術賞
- ・安川電機賞
- ・SIer 協会賞
- ・特別賞（センサ協議会賞）

4. 社会インフラ現場実装賞について

表彰されたチームは、一般社団法人日本建設機械施工協会設置の「建設現場実装プロジェクト支援委員会」より一般財団法人先端建設技術センターの研究開発助成への推薦が得られる。

5. 特別賞について

2日目の表彰式で団体の代表者から授与される。